

○大妻女大人間生活科研 布施谷節子

大妻女大短大 高部啓子 東横学園女短大 有馬澄子

目的： 情報化社会と言われる今日，マスコミの影響もあり，人々のファッションに対する関心や痩せ志向（ダイエット志向）が今までになく強いように思われる。本研究ではマスメディアの影響を強く受けていると思われる女子短大生を対象とし，かれらが自分のからだつきをどのように認識し，それを既製服の選択購入にあたり，どの程度考慮しているか，また実際の身体計測値と自分のからだつきに対する思い込みとのギャップがどの程度かを明らかにすることを目的にした。

方法： 都内の女子短大生約300名を対象として，身体11項目の計測とアンケート調査を実施した。アンケートでは，自己のからだつき評価16項目，着用したいブラウス・スカートのデザイン19種並びにそれらの素材・色・柄・テクスチャーを調査した。これらの資料を単純集計，クロス集計，因子分析により解析した。

結果： (1) 女子短大生は，自己のからだつきにマイナスイメージの評価を下す傾向が見られる。ことに腰部・大腿部・下腿部の太さに対して非常に強いコンプレックスを持っている。(2) 着用したいと思うブラウスでは，からだつきを考慮すると言うよりは，服のデザインに集中するという傾向が見られるが，スカートでは，からだつきを考慮している。(3) 因子分析の結果から，自分が太っていると認識している者は，特にウエスト，ヒップ，大腿部が太いからだと考えている。しかし実際にはバストやネックの周径測定値も大きい。